

マンホールに刻まれた つくば市の歴史

つくば市立竹園西小学校 5年 小西菜月



調査のきっかけ

私の住んでいるつくば市では、スペースシャトルのデザインマンホールが有名だが、自宅近くでつくば市なのは「桜村」と書かれたマンホールを見つけ不思議に思った。調べてみると、約30年前に桜村は他4町と合併してつくば市になったのだとわかった。そこで、古いマンホールを見れば、他にも何か昔のことがわかるかもしれないと思い、つくば市内のマンホールの写真を撮って集めて、地図に当てはめたり、資料と比べてみることにした。

つくば市でみつけたマンホールの種類

見つけたマンホールは、なんと185種類！ まだあるかも。

公共型マンホール

汚水・雨水: つくば市、茨城県管理の下水道。合併前の旧町村や筑南地方広域行政事務組合の記号の入ったものもある。また、記号は同じでも表記、字体、地模様、穴の位置などの違いで、その種類は85以上にもなった。つくば市のデザインマンホール(1999年〜)はつくばらしいデザインで、一部でカラー版もある。汚水と雨水が同じデザインのため、汚水はオレンジ、雨水は白色で文字がマーキングされていることもある。旧基崎町ではヒマワリのデザイン版があった。



消火栓・防火水槽: 丸形だけではなく四角形もあり、オレンジの線で囲って目立たせてあることが多い。消防士・消防車のデザインも数種類ある。

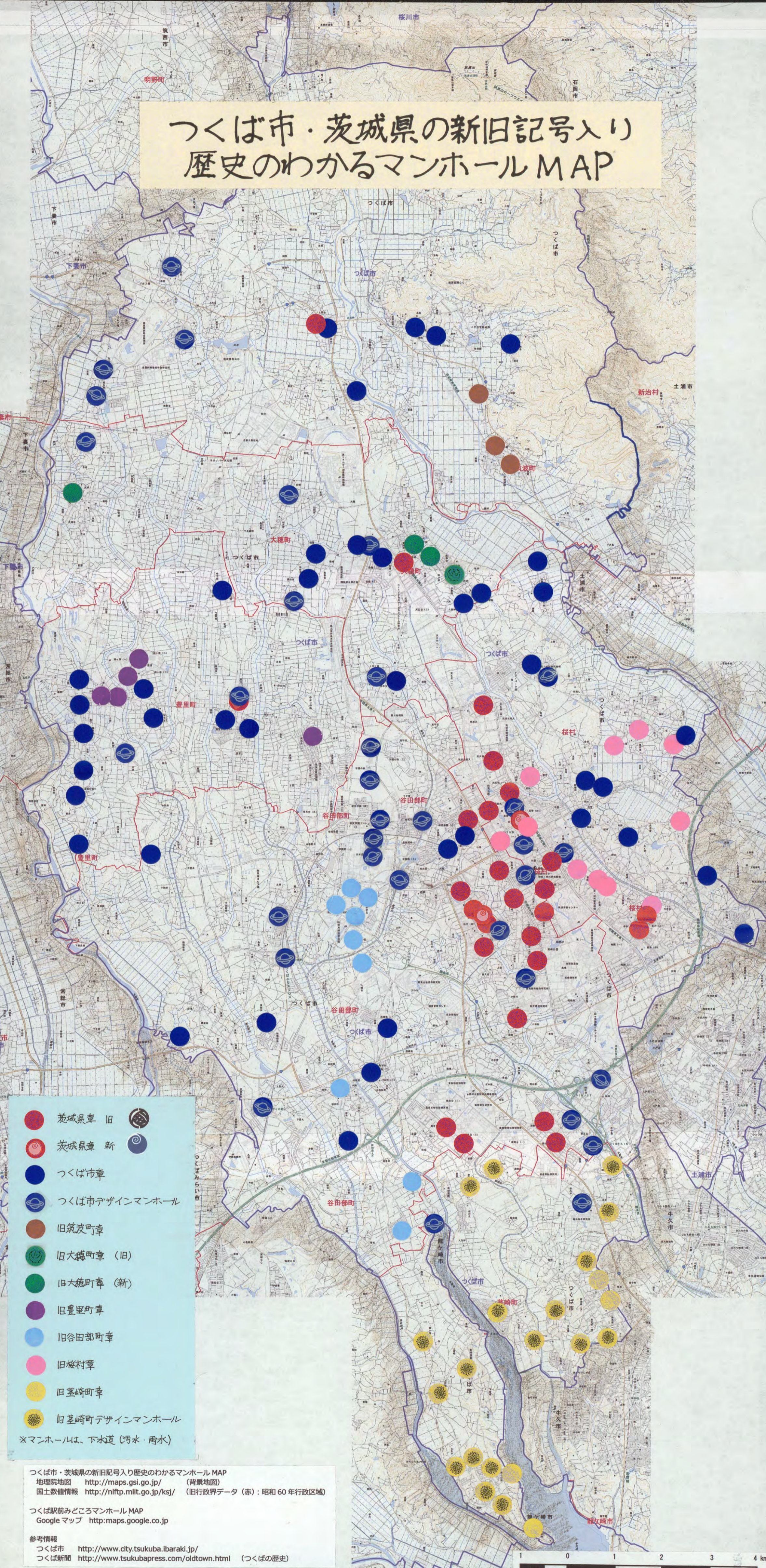
空気弁・制水弁・バタフライ弁 上水道関係。茨城県設置の水道用水から受水し、つくば市水道事業(旧町村水道事業→筑南水道企業団(1972~2002年)→つくば市水道事業に統合)により市内へ給水している。水色に着色されているものもある。工業団地には「工水」(工業用水)。

信号・照明: つくば市、茨城県の記号が入っていて交差点等で見かける。信号は警察の管轄であり、「警」という文字だけのマンホールも同様と思われる。

共同溝: つくば駅周辺の学園都市開発初期のエリアでは、国の援助を受け茨城県および旧自治体が1975年頃整備した共同溝があり、東京電力・電電公社(現NTT)の表示がある共同溝マンホールが見られる。

C.C.BOX 電柱のない街づくりのため、電線ケーブルを地中に通したもので、上記の共同溝ほど大規模な作りではなく費用もかからないので設置しやすい。最近のつくば市C.C.BOXは、下水道デザインマンホールと同じデザインを使用し、みどりの駅や研究学園駅周辺にはカラー版もある。

ゴミ輸送管: 1983年から2009年まで、吾妻のセンター地区でのゴミ収集は「管路輸送システム」という形で行われていて、マンホールが残っている。



企業型マンホール

都市ガス: 筑波学園ガス(1970~2016年)が2016年5月に東京ガスと合併。学園中心部の歩道で東京ガスの旧社章のロゴ☆を見ることができるが、大半は筑波学園ガスのロゴ(1994年〜)

電気: 東京電力。1987年までは⊕、以降は、現在のロゴ⊕+TEPCOの文字。企業ロゴのない「電気」文字型の古そうなマンホールも数種類ある。

電話: 1985年までは電電公社(NTT)の⊕、以降はNTTの⊕。

ケーブルテレビ: 「ACCS」、「CATV」

特定の施設や場所に由来するマンホール

大学: 「UV」文字入りマンホールが筑波大学構内にある。「実験蓋」は大学らしいマンホールだと思ふ。

図書館: 「図情大」文字入りマンホールが旧図書館情報大学(1979-2002年、筑波大に統合)周辺にある。

研究所: 産総研に「研研」、「冷研」など研究所らしい文字入りマンホールがある。

筑波実験動物園: 水やりのための「灌水」マンホール発見。「井水」は井戸水?

その他
 「農水」(農業用水?)、「国土交通省のマーク」、「通信」など。
 親子蓋と呼ばれる2重マンホールもときどき見かける。

つくば市の誕生

1987年に谷田部町、大塚町、豊里町、桜村が合併してつくば市が誕生。翌1988年に筑波町が編入合併した。2002年には、基崎町が編入合併し、筑波研究学園都市を構成する6町村がひとつの自治体となった。

合併前の旧町村については、以下のとおり

筑波町: つくば市の最も北にあった町。筑波山のふもとに栄えていた。

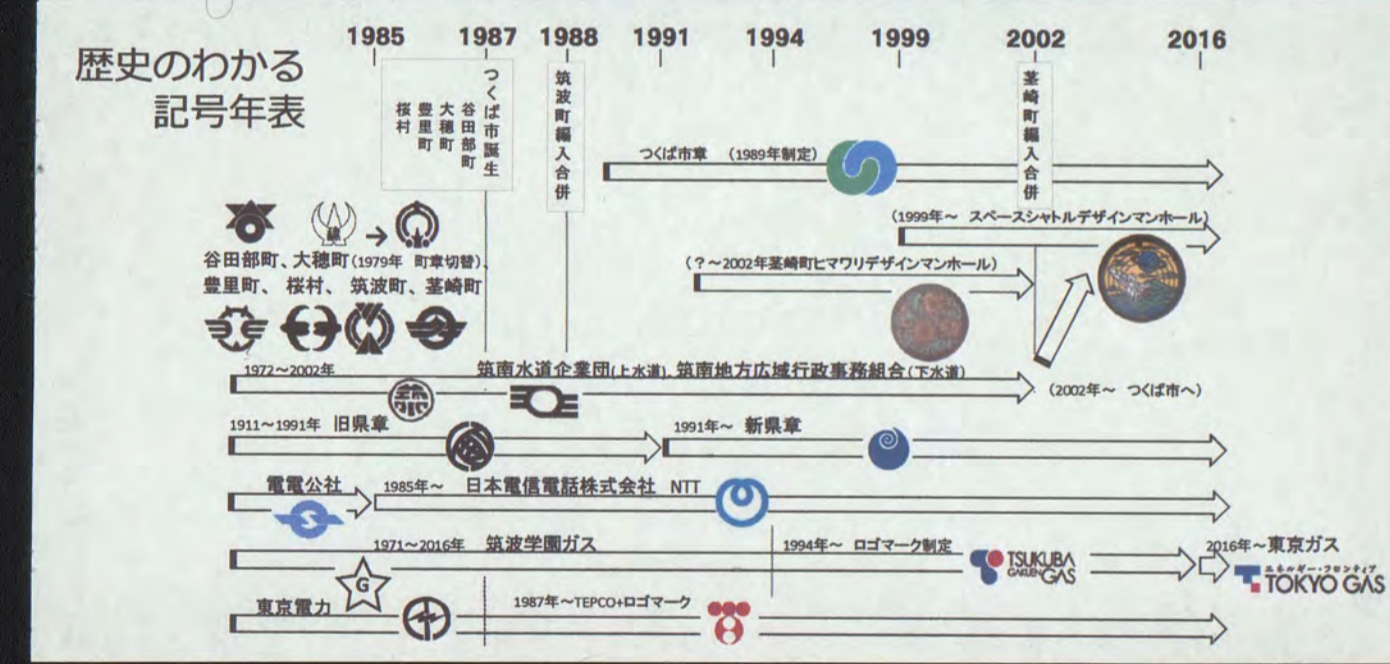
大塚町: 筑波町の南側、豊里町の北側にあった町。

豊里町: つくば市の西側中央部にあった町。北側を大塚町、南側を谷田部町に挟まれていた。旧6町村では人口が最も少なかった。

谷田部町: つくば市の中央部から南部にかけてあった町。筑波郡の中心地として長く栄えた。合併した6町村で最も面積が広かった。

桜村: つくば市の東側にあった村。研究学園地区中心部の東側半分を占め、合併前は日本で最も人口の多い村だった。合併した6町村では最も人口が多かった。

基崎町: つくば市の最南部にあった町。筑波研究学園都市を構成する6町村では、5町村合併後も唯一合併せず最終的につくば市に合併したのはつくば市誕生の15年後2002年で、町の花は「ひまわり」だった。



つくば駅周辺のマンホール見どころ

つくば駅周辺の、学園都市開発初期の旧桜村のエリアでは、今回の調査のきっかけにもなった「桜村」の文字の入った電電公社や東京電力のマンホールがある。

つくば駅周辺の土浦学園線には学園都市開発当初(1974年頃)の茨城県設置の共同溝マンホールが残っていて、そのデザインは漢字が並んだ古風なもの。交通量が多いので見学の際は注意すること。

マンホールカードに記載された最新カラーマンホール(汚水)はつくば駅交番前歩道にある。また、2016年8月現在で唯一の雨水カラーマンホールは大清水公園脇にある。

新旧茨城県章、都市ガス・電気・電気などいずれも新旧混在している。

2002年に筑波大と統合した旧図書館情報大学の略称「図情大」の文字入りマンホールがある。

吾妻の公務員宿舎内には、もう使用されていないが、桜村記号のついた「ゴミ輸送管」マンホールがまだ残っていて、かつて最先端のまちづくりを目指した地区であったことがわかる。

感想

何気なく見ていたマンホールの種類が意外に多くておどろいた。特に、ぱっと見で同じに見えても、文字や穴、後ろの模様が少し違っていたりするなど、間違い探しをするような目で見ると、種類がとてつもない増えたとのおもしろかった。また、はやりデザインマンホールも素敵だが、ただの古い記号マンホールから地域の歴史を知ることができ、あなだれだと思ふ。

つくば駅前みどころマンホールMAP

